

議員団 ニュース

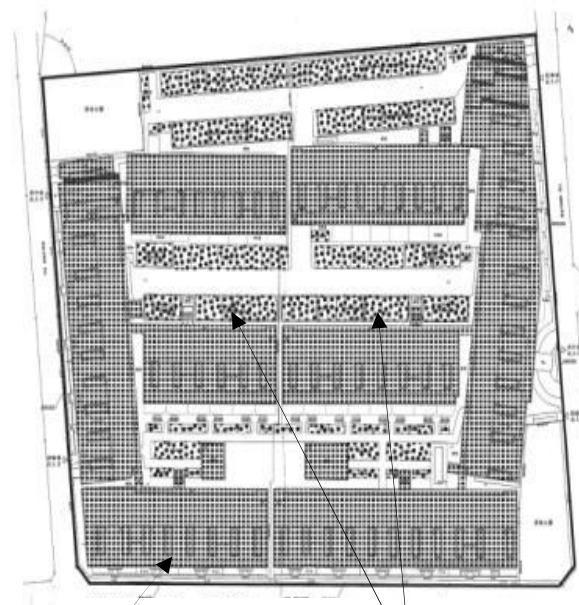
日本共産党平塚市議会議員団
団長 渡辺 敏 光
電話・fax 31-6431
w-toshi@agate.plala.or.jp
松本 敏 子
電話・fax 59-4607
mail@matsumoto-toshiko.jp

日本共産党平塚市議会議員団
電話 0463-23-1111 (内線 2375)
平塚市浅間町9-1 平塚市議会控室

日本共産党議員団の法律相談
今回は5月9日です。
午後1時 (要予約)

No.1025 2009年4月26日発行

黒部丘に大規模マンション、 大型パチンコ店が進出 !?



建物

駐車場・駐輪場

設計・施工： 長谷工コーポレーション

平塚市黒部丘の日本たばこ産業 (JT) グラウンド跡地の南半分 (約5千坪) に大型マンションが建設されようとしています。

357戸・5階建て、千人からの入居が可能であり、市内マンションでは2番目の規模といわれています。

この建物、単に大きいというだけではありません。8棟の建物を渡り廊下で結び2棟とみなした「日」の字型の建築物です。しかも、その周辺道路は6m弱の通学路。

日の字型のマンションの内部空地には358台の立体駐車場等で埋まり、敷地内には消防車も入れないという、地域にとっても入居者にとっても危険極まりない建物といえます。

上記のメールアドレスまたは電話にて、皆さんからのご意見・ご要望をお寄せください。



パチンコ店建設が計画されている
広大な住宅展示場跡地。

また同じく、黒部丘の湘南倉庫北側の住宅展示場跡地に大型パチンコ店が進出しようとしています。

敷地面積 10,792.02 m²、店舗 地上1階、高さ 9.95メートル、駐車場 地上2階、高さ 9.95メートル 棟数 3棟 事業者 株式会社ニラク (福島県郡山市)

このニラクというパチンコ事業者は、すでに関東・東北を中心に数十店舗を持っています。

平塚市の将来に禍根を残さないために！ 計画の見直しを強く求めます。

防災危機管理に欠けたマンション計画

- 大地震の危険性が叫ばれている昨今。このマンション敷地内は、駐車場や駐輪場で空間を埋められ、さらに建物で四方を囲み、消防車が入れない設計にしているということは重大問題。
- 6m道路を隔てて約15mの高層建物が立ち上がる圧迫感。
- 震災時に倒壊・延焼の危険があり、地域全体に予想を超える危険の可能性。
- 狭い道路に358台の車の通行、さらに宅配便など車の混雑。子どもやお年寄りが事故にあう可能性が非常に高い。
- 高地盤による雨水の浸入、「壁」による景観の悪化と風通しの悪化。クーラー廃熱による被害。

4月18日、「黒部丘マンション計画を考える会」主催で2か所の現地視察会が行われ、渡辺・松本議員と党・高山和義氏が参加。

これ以上ギャンブル施設はいらない！

- パチンコ台数600台、駐車場には400台からの車が入り出る。東海道線に接する角地の一方通行道路であり、地域に交通渋滞・交通事故の懸念が大。
- 治安の悪化
- 近隣地区の静かな環境の破壊
- 教育環境悪化
- 景観悪化、騒音発生の不安



「マッサージ券」の利用状況

平塚市の単独事業である「高齢者理療券」はマッサージ券ともいいます。この事業は高齢者の方の健康保持・増進を図ることを目的として、74歳以上の方を対象に、はり・きゅう・あんま・マッサージ・指圧の理療助成券を交付するものです。

この「マッサージ券」は、1年間に2000円分の助成券を12枚交付されていましたが、今年から10枚になり「ガッカリ・・・」との声が出ています。

この事業の変遷を見てみましょう。

H5年度：これまで8枚だった助成券を12枚に拡大。

H9年度：1850円の助成だったものを2000円に拡大。(1回2600円のマッサージを自己負担600円で受けられます)

H21年度：12枚から10枚に縮減。

近年の利用状況、助成額の推移

表を見てみると、年々対象者の数は増えてきていますが、交付数はそれほど増大せず、15年度には交付率15.1%でしたが、その後13～12%台を保っています。

この表から、徐々に利用率が上がってきた分、助成額も多くなっているのがわかります。1回に2000円の助成が受けられるマッサージ券、毎年12回(月に一回)のマッサージを楽しみにしていた人にとっては2回の減数は痛い。

しかし、毎年交付された券のうち、約半数近くが使用されていないという実態もここからうかがえます。そうであれば、毎月楽しみにしている人の利用は保障してほしいものです。

年度	対象者	交付数	交付率	利用率	決算金額
H21年度					予算額 4338万 9000円
H20年度					予算額 3903万 2000円
H19年度	23,307	2,896	12.40%	56.30%	3924万 1800円
H18年度	22,190	2,683	12.10%	54.60%	3522万 800円
H17年度	21,325	2,656	12.50%	53.10%	3393万 9400円
H16年度	20,218	2,655	13.10%	50.80%	3239万 7400円
H15年度	19,050	2,873	15.10%	49.10%	3390万 9200円

「子ども教育相談センター」を見学



「子ども教育相談センター」所長さんにお話を伺いました。

「子ども教育相談センター」は、崇善小学校の敷地内にあります。ここには、はじめはなかなか馴染めない子供たちのために、心を和ませるお部屋があります。ここでは、多くのおもちゃや人形などから自分の好きなものを選び、「箱庭」に並べてゆく「箱庭療法」も行われています。

平成19年度の相談件数は477件、そのうち小学生が54%、中学生は43%といます。

ここに通う子供たちは、「適応指導教室」でベテランの先生方からひとり一人に合った学習や心のケアを受けています。

いま、子供たちを取りまく環境が大きく変化している中で、子どもたちの心が傷つき、学校に行きづらくなったり、対人恐怖、情緒不安定など様々な問題を抱え、不登校になる子が後を絶ちません。

また、特別な支援が必要な子供たちへの取り組みも早い対応が求められるため、ますます専門性と総合的・体系的な支援の方法が求められています。



不登校により閉じこもり傾向の生徒には、訪問して継続的に相談を受けることもあるとのこと。

このように、一般からの教育相談・学校からの教育相談、障がいがある生徒の教育や就学に関する相談・訪問相談など多様であり、学校関係の研修・研究も行われていると伺いました。

ミツバチがいらない!



ミツバチがイチゴの花の周りを懸命に動き回って受粉をするから形のいいイチゴができるのだといいます。

ところが今年、ミツバチの数が少ないために寺田繩のイチゴ農家でも、売り物にならないイチゴを毎日どっさりと捨てているというのです。

ミツバチが急激に減って来たのは2年ほど前からと言います。このままでは、農作物の被害は甚大なものになっていく恐れがあります。